

腸管出血性大腸菌（^{オー}O157）感染症患者等の発生について

1. 患者及び感染者の状況

(1) 患者

- ・砺波厚生センター管内男性（30歳代）
- ・経緯 9月20日（水）腹痛、下痢、嘔吐
9月21日（木）医療機関を受診し、検便実施
9月26日（火）医療機関にて腸管出血性大腸菌 O157(VT2)検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 下痢症状はあるが、快方に向かっている。

(2) 感染者

- ・高岡厚生センター管内女性（40歳代）
- ・経緯 9月21日（木）職場で健康診断（検便）実施
9月26日（火）検査機関にて腸管出血性大腸菌 O157(VT1、VT2)検出
腸管出血性大腸菌感染症と診断
- ・症状 無症状

2. 患者、感染者及び感染源調査

- ・患者及び感染者の喫食状況調査及び行動調査を実施
- ・患者及び感染者の家族等接触者の健康状況調査を実施

3. 対応

- ・患者及び感染者の自宅等の消毒を指示
- ・患者、感染者及び家族等に対し、衛生教育を実施

4. 予防対策の周知をお願いします

- ・調理の際、食事の際、トイレの後など手洗い消毒を徹底しましょう
動物とふれあった後にも、必ず石けんを使用して十分に手洗いをしましょう
- ・肉類や加熱する食品は十分に加熱しましょう
特に食肉については、生食を避け、中心部まで十分加熱するようにしましょう
※生食用の牛レバーは提供・販売されていません。
- ・生野菜は流水でよく洗いましょう
- ・調理器具を使い分けましょう
生肉が触れたまな板、包丁、食器等は、生野菜や加熱済み食品を汚染しないよう、
十分洗浄消毒してから使いましょう
※焼肉やバーベキューを楽しまれる場合は、生肉専用の箸やトングを使用し、食
べるときの箸と使い分けをしましょう

■下痢等の症状がある場合は、速やかに医療機関を受診し医師の診察を受けましょう

5. 参考	(平成 29 年)	(平成 28 年：同時期)
(1) O157	14 名 (本事例を含む)	3 名
(2) O26	11 名	6 名
(3) O91	3 名	0 名
(4) O121	0 名	3 名
(5) O145	0 名	1 名
(6) O146	1 名	0 名

【報道機関各位へお願い】

報道に際しては、患者様御本人及び御家族のプライバシーに十分な御配慮をお願い致します。